

東京バッハ合唱団 月報

[第 615 号] 2013 年 9 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 <http://bachchor-tokyo.jp/>
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp (変更) bachchor.tokyo@aol.com (2013 年 2 月閉鎖)

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 615

September 2013

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

バッハ崇敬者ではなく、寛いだ人たちの集まり

多様に、自由に、合唱団活動への参画を

大村 恵美子 (主宰者)

今回の参院選挙の総括として、内田樹氏がつぎのように書いている。「有権者は、〈効率的にトップダウンで政策決定ができるシステム〉を選好し、〈多様な政治的意見を調整し、妥協点を探るシステム〉を嫌った。これが私の今回の総括である。」(AERA、8月5日号、Vol. 26 No. 33)

グループの構成員が一枚岩というのは、いかにも純粹でまとまりがあるように考えられる。しかし、戦時中に育った私などの場合には、それよりもすぐに「危険信号」の気配を感じるのが正直なところである。「進め！」という大音声のトップのもとに、勢いこんで身を投ずることで、どれだけものごとの本質が無視され、捨て去られてきたことか。表面は一致団結に見えて、世界、社会、国家、市町村、家庭、そして個人同士が、根のほうから相互不信の地獄に突き落とされていったのだった。いま毎日、目にし耳にするニュースの大半は、この現象の再現をまざまざと予感させるものである。わが東京バッハ合唱団の場合も、バッハの音楽が最上、バッハの人間性が最高、バッハの信仰が最深、etc. ……と信ずる、献身的なバッハ崇敬者の集うホットな団体だとしたら、むしろうす気味悪いのではないだろうか。

最近、いろいろな角度から、初めて本気でバッハに接する、という人生経験豊かな方々が入団してこられることが多くなってきている。それらの方々の感想では、バッハがとても新鮮に受けとられ、またバッハの作曲の背景にあるキリスト教文化にも、ある意味で興味深く接し始められたようなところがある。もちろん、接した途端に、ああ、これは自分の世界からは遠い、とばかりに去ってゆかれる場合も多いだろう。私は、去る方があっても、そのほうが、「普遍性」という絶対価値の高みから強要するよりも、ずっと人間本然のあり方に即しているように思う。

私の場合は、早くからバッハに文句なく引きつけられ、またその創作の多産性にも未来を託すにふさわしい希望が寄せられて、何の疑いもなく、バッハ一筋の道を50年も続けてこられた。しかし、小学校以来の私のある友人(後援会員)は、「あなたを応援するつもり

で毎回聞きにゆくけれど、いまだによく分からなくて、申しわけないのです」とよく心中吐露される。まったくそれは負い目になることではなく、私にしてみれば、美談に近いことではないかと思われ、いつも感謝している。キリスト教文化そのものであるバッハの声楽曲は、それほどにも、おおかたの日本人の想像力にも感性にも無縁のものなのだろう。

現段階では、数十年來の団員も後援会員も、高齢となられ、活動に疎遠になることも多く見られるようになった。それも自然なことで、感謝のうちに受け容れる以外にない。しかし、存続するかぎりは、それをカヴァーし、その衰勢を乗り越えるほどの新人団員、新

<公演予告>

- 第 109 回定期演奏会 創立 50 周年記念公演 [4]
バッハ 4 大合唱作品 [日本語] 連続演奏

2013 年 12 月 7 日 (土)、13:30 開演
杉並公会堂大ホール

教会カンタータ第 76 番《主の栄光を 天は語り》 《クリスマス・オラトリオ》第 IV・V・VI 部

光野孝子 (S)、佐々木まり子 (A)、鳥海 寮 (T)
藪西正道 (B)、東京カンタータ室内管弦楽団
草間美也子 (Org)、東京バッハ合唱団
大村恵美子 (指揮)

チケット発売: 9 月 7 日 予定

- 第 110 回定期演奏会 創立 50 周年記念公演 [5]
バッハ 4 大合唱作品 [日本語] 連続演奏 (最終回)

2014 年 3 月 15 日 (土)、13:30 開演
杉並公会堂大ホール

《ヨハネ受難曲》

鏡 貴之 (Ev g)、渡邊 明 (Jesus)、光野孝子 (S)
佐々木まり子 (A)、鳥海 寮 (T)、藪西正道 (B)
東京カンタータ室内管弦楽団、草間美也子 (Org)
東京バッハ合唱団、大村恵美子 (指揮)

<練習スケジュール>

■夏季集中練習《ヨハネ受難曲》(詳細案内あり)

8/17 (土) 荻窪教会
8/24 (土) 世田谷平安教会 } 13:00 - 18:00 (各 5 時間)
8/31 (土) 荻窪教会

(8 月中の月曜練習[目白]は、夏季休暇です)

■通常練習《クリスマス・オラトリオ》IV-VI+BWV76

9/2 より、毎週月曜日: 目白聖公会、18:30 - 20:30
9/7 より、毎週土曜日: 荻窪教会、15:30 - 17:30

■通常練習《ヨハネ受難曲》

12/9 より、毎週月曜日: 目白聖公会、18:30 - 20:30
12/14 より、毎週土曜日: 荻窪教会、15:30~17:30

<入団のご案内>

■練習日と練習会場(時間は上記のとおり)

・月曜日: 目白聖公会(山手線目白駅下車, 目白通りを下り方面へ徒歩 5 分, 新宿区下落合 3-19-4)
・土曜日: 日本キリスト教団 荻窪教会(中央線/地下鉄荻窪駅下車, 南口徒歩 8 分, 杉並区荻窪 4-2-10)

■指導

・音楽指導=大村恵美子(主宰者・指揮者)
・発声指導=光野孝子(ソプラノ), 鏡貴之(テノール)

■入団

・資格/経験等は問いません。
・入団金(3000 円), 月額団費(5000 円/学生無料/30 歳まで半額/家族割引), チケット分担あり。

(両会場ともご参加いただけます。見学ご希望の方はあらかじめ事務局までご一報ください。詳細案内あり)

入の後援会員を、私たちは期待せざるをえない。今でも相変わらず、バッハなら声楽曲よりも器楽を、訳詞よりも原詞を好む傾向がつよいなかで、あれこれの主義に凝り固まった、一塊まりの純粋信者グループではなく、それこそバッハ本来の、間口広く開放されて、あらゆる評価もゆきかうような、寛いだ人たちの集まりでありたいものと願っている。

忙しい東京で、50 年以上も、土・月と週 2 回の練習機会をもうけ、年 2 回以上の公演を貫いて、「練習はいつ出席されてもいいですよ。ご都合に合わせて出られる時にどうぞ」と、弾力性をもたせているのも、他にはあまり見られないあり方であろう。でも、こういう融通無碍な運営方針でやってきたのは、なるべく多様で自由な構成員を期待してのことだった。経済の鉄則に縛られた世の中の活動で、自分の希望が 100 パーセント満たされる空間は、なかなか見つからないはずだけれど、まず、居心地を試しに、練習をのぞきにいらしてくださる方の現れることを、練習ごとに祈願している。

●読者の皆さまのご参画を期待しています。

- ・歌ってみたい ⇒ <練習スケジュール><入団ご案内>
- ・公演を聴いてみたい ⇒ <公演予告>(前ページ)
- ・合唱団をサポートしたい ⇒ <後援会のご案内>

<後援会のご案内>

1. 後援会の目的……東京バッハ合唱団の活動を全面的に支援することを目的とします。
2. 後援会員の特典
 - 1) 定期演奏会(原則として年 2 回)にご招待します。
 - 2) 合唱団「月報」を毎月お送りします。
 - 3) 合唱団発行の楽譜・CD 等を特価でお頒けします。
 - 4) 合唱団主催の催し物(懇親会・研究会など)をご案内し、ご優待します。
3. 後援会費……年額(1 口) 12,000 円
4. 入会の方法
 - 1) 申込み用紙を事務局までご請求ください。
 - 2) または直接、郵便局備え付けの「払込取扱票」の通信欄に「後援会入会」と明記し、入会口数の金額を下記口座にお振込みください。ご住所(郵便番号とも)、お名前、ご連絡先電話番号を、かならずお書き添えください。
5. 郵便振替口座
00190-3-47604 東京バッハ合唱団
6. 問合せ……東京バッハ合唱団事務局 内
(連絡先は、月報タイトル囲み内をご参照ください)

お・た・よ・り

「マタイ受難曲」記念誌に感動

佐々木 まり子様(声楽家、団友)

連日の猛暑のニュースが続いておりましたが、いかがお過ごしでいらっしゃいますか? こちら[盛岡]は申し訳ないくらい涼しい、

雨の多い毎日で、昨日の最高気温は 21 度でした。

先日は、創立 50 周年の「マタイ受難曲」記念誌をお送りいただき、ありがとうございました。お一人お一人の顔を思い浮かべながら拝見しました。とくに加藤さんの、児童合唱団設立までの様子、立教小学校の長畑先生と生徒さん一人一人の感想、合唱団員ゆかりのお子さんたちのそのままのかわ

いらしい文面は、本当に感動して読ませていただきました。これらの言葉をいただいただけで、3 月の「マタイ受難曲」日本語演奏は、充分意義あることだったのだ、と思います。3 時間半あまりの演奏の重要な一場面を、心を込めて歌いきったその経験は、幼い若い心の中できっと何かの種がまかれ、いつか大きな熱い想いに成長するにちががありません。

暑さもこれからが本番、野尻湖の演奏も楽しみです。お身体、充分お大切に、すこしペースをゆっくりめになさってお過ごしくださいませ。



創立 50 周年
《マタイ受難曲》記念文集

創立 50 周年《マタイ受難曲》記念文集 補遺

お詫びと補遺のお知らせ

記念文集・編集委員会

今年受難週の日曜日（3月30日）に、紀尾井ホールで《マタイ受難曲》を上演してから、半年が経とうとしています。

この日のステージに乗った独唱・合唱・器楽、総勢 116 名の中から 50 余名の方々が、この至高の音楽遺産の演奏にたずさわった熱い思いと感動を、それぞれの稿に託してお寄せくださり、去る 7 月に「記念文集」の形で刊行いたしました。ご支援くださる皆様方と出演者全員に贈呈させていただきましたので、すでにお目通しになられた方も大勢いらっしゃるかと存じます。

*

ところで、たいへん残念なことですが、今回の「文集」用の集稿手続きのミスから、4 人の方の原稿の掲載が漏れてしまいました。いずれも、われわれ合唱団の古くからの仲間であり、「わたしも、あの、四人のかぞくみたいに、ずっと、バッハをつづきたいです」と小学校 1 年生の児童団員（文集 11 ページ）の感想にある、室田家 4 人家族のものでした。小学校卒業したての真由さん（アルト）は、当文集の表紙用にかわいいイラストを描いてくださっています。

ここに、お詫びとともに文集補遺として掲載させていただきます。このページを、文集の中に綴り込んでいただければ幸いです。

*

なお、上記の記念文集は、若干の余裕をもって製本いたしました（A4 判・本分 24 ページ、カラー写真 2 ページ）。頒価 1 冊 500 円（送料 1 冊 80 円、2 冊以上無料）にてお分けいたします。

ぜひご一読いただき、私どもと、感動と記憶を共有していただけますよう、お願い申し上げます。

*

●お申し込み：事務局（月報タイトル囲み内に連絡先）

マタイ受難曲を歌って

室田千晶（アルト）

私にとって、東京バッハ合唱団で《マタイ》を歌うチャンスが 2 度もおとずれるとは、20 年前には夢にも思わなかった幸運でした。

入団当初から「マタイはいいヨ」と言う先輩団員の話によってあこがれ続け、しかし他の合唱団ではドイツ語でしか歌えなくて……。心に響く日本語で歌うには、口語訳ではなく歌ってしっくりくる言葉で歌うには、どうしても大村先生の合唱団でなければならなかったのです。

前回は、悠介と真由が児童合唱でした。本番ギリギリまで、自分の練習よりも、児童合唱団のことでバタバタしてました。本番中も常に子供の歌いだしにばか

り気を取られて、ヤキモキしっぱなしで、気づいたら終わってしまいました。

しかし今回は、集中して歌わせていただきました。背が高くなって後ろの段で私と並んで歌うようになった真由と、もっと背が高くなって声変わりしてしまったテノールの悠介と、相変わらずマイペースで歌う主人と。おそらく四人揃ってマタイを歌えるのは、これが最後だと思います。しかし、子供達の記憶に、最高に美しい音楽と、信仰深いバッハの福音を記すことが出来たことと思います。本当にありがとうございます。

マタイ受難曲をうたって

室田真由（アルト）

3 月 30 日は「マタイ受難曲」の演奏会でした。

この前うたったときは、保育園を卒園した時でした。今年 1 週間前に小学校の卒業式でした。

練習している時は眠かったけれど、本番では失敗なく普通に歌えました。

大人の合唱は長いので、こどもの合唱団は短くていいなと思いました。でも、お客さんがたくさん来てくれたので、よかったです。

楽しかったマタイ演奏会

室田悠介（テノール）

部活が忙しくて今回の曲は、あまり練習に出席できなかったのも、いつもよりは上手とはいえ、自信がありませんでした。

だけど、演奏会の本番になって歌ってみると、やっぱりバッハの合唱は楽しいと思いました。しかし、終わった時は、この曲はやっぱり長くて疲れしました。

今度は《クリスマス・オラトリオ》の後半を始めて歌います。高校 3 年で秋は大学受験が中心になってしまっていますが、頑張りますので、よろしくお祈りします。

六十歳のマタイ受難曲

室田 悟（バス）

2013 年 3 月 30 日は、定年退職日の前日でした。前日の金曜日には会社での行事を終えていました。この時期に《マタイ受難曲》を歌えたのも、区切りとして何か意義あるのだろうと思いつつ声を出してました。

今回は 2007 年以來、2 度目の日本語による《マタイ受難曲》の経験でした。文語はなかなか馴染めないと普段思っていますが、今回歌っている時に、時々難しい言葉が、自然に心の中に入ってくるのを、感じていました。六十代になってちょっとだけ成長したのかもかもしれません。

今回も家族四人で演奏会に参加する事ができました。皆様の日頃の温かい心に感謝いたします。できれば、あと 2 回いっしょに歌えたらなあと思っています。



創立 51 周年の集い、深大寺で

上田 洋也 (団員・バス)

先日、団の創立 51 周年パーティーに行きました。当日はたいへん暑かったのですが、送迎のマイクロバスで行きついた会場は、大きなガラス窓から両側の豊かな緑が見える、とても居心地のよいところでした。

おいしいお料理を戴きながら、20 人ほどの参加者が、順に、自分と団との「なれそめ」のような話をしていました。

私は入団して半年ほど、「今」「ここ」しかないようなものですが、皆さんのお話をきいていると、個々の団員や、そのつながり、そして団全体としての「ひろがり」や「おくゆき」が感じられ、「自分が今、参加しているところは、こういうところなんだ」と新しい視点が開けたようでした。

帰りも、調布駅まで送迎車でしたが、少しお酒が入ったこともあってか、少々くつろいでにぎやかだったように感じました。

東京バッハ合唱団 創立 51 周年記念懇親会

<日時・会場>

2013 年 7 月 7 日 (日) 14:00~15:30、深大寺「水神苑」2 階

<参加者>

大村恵美子 (主宰者)、梅澤和子、川合満里子、小林順子、小堀徳子、菅原昌子、高濱朗子、信森かず子、百鳥洋子 (以上ソプラノ)、小野久美、高野京子、田口博子、三上裕子 (以上アルト)、大村健二、宮城幸義 (以上テノール)、上田洋也、加藤剛男、鈴木常彦、千葉光雄、森永毅彦 (以上バス)

■この欄の写真：千葉光雄氏撮影 (上段左と下段)、編集部 (上段右)



バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑦

BWV 65 《もろびと シバより来たりて》(1724)

Sie werden aus Saba alle kommen

【教会暦】顕現節 (他に=BWV 123, 248^{V1})

[書簡]イザヤ 60:1-6*。シエバの人々は、みな黄金と乳香をたずさえて来る。(※旧約イザヤ書は「書簡」ではないが、この日の聖句[ヘリコーベ]に指定)
[福音書]マタイ 2:1-12。東方の学者たち、ベツレヘムでみどりごを拝む。

BWV 66 《心はずめ 痛みは去れ》(1724)

Erfreut euch, ihr Herzen

【教会暦】復活節第 2 祝日 (=BWV 6)

[書簡]使徒 10:34-43。BWV 6 に同じ。

[福音書]ルカ 24:13-35。(同上)

BWV 67 《留めよ心に 主イエスを》(1724)

Halt im Gedächtnis Jesum Christ

【教会暦】復活節後第 1 日曜日 (=BWV 42)

[書簡]第 1 ヨハネ 5:4-10。BWV 42 に同じ。

[福音書]ヨハネ 20:19-31。(同上)

BWV 68 《み神はこの世を かく愛したまへり》(1725)

Also hat Gott die Welt geliebt

【教会暦】聖霊降臨節第 2 祝日 (=BWV 173, 174)

[書簡]使徒 10:42-48。ペトロは、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるようにと命じた。

[福音書]ヨハネ 3:16-21。神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

BWV 69 《頌めよ主を わが魂》(1748。原作は次項参照)

Lobe den Herrn, meine Seele

【用途】市参事会員交代式(ライプツィヒ市。=BWV 29, 119, 193。BWV 29 参照)。ミュールハウゼン市(BWV 71)(下記)

冒頭合唱とアリア(第 3, 5 曲)は原作(次項)の指定聖句を参照。

BWV 69a 《頌めよ主を わが魂》(1723)

Lobe den Herrn, meine Seele

【教会暦】三位一体節後第 12 日曜日 (=BWV 35, 137)

[書簡]第 2 コリント 3:4-11。BWV 35 に同じ。

[福音書]マルコ 7:31-37。(同上)

BWV 70 《起きて 祈れ》(1723)

Wachet! betet! betet! wachet!

【教会暦】三位一体節後第 26 日曜日

[書簡]第 2 ペトロ 3:3-13。義の宿る新しい天と地とを待ち望む。

[福音書]マタイ 25:31-46。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。

BWV 71 《主は わが君》(1708)

Gott ist mein König

【用途】市参事会員交代式(ミュールハウゼン市、2/4 固定)

詩編 74 他。神よ、いにしえよりのわたしの王よ、この地に救いの御業を果たされる方よ。

BWV 72 《みなすべて み心のまま》(1726)

Alles nur nach Gottes Willen

【教会暦】顕現節後第 3 日曜日 (=BWV 73, 111, 156)

[書簡]ローマ 12:17-21。悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。

[福音書]マタイ 8:1-13。皮膚病の人、百人隊長のしもべを、イエスが癒す。

BWV 73 《生くるも 死ぬるも み心のまま》(1724)

Herr, wie du willst, so schick's mit mir

【教会暦】顕現節後第 3 日曜日 (=BWV 73, 111, 156)

[書簡]ローマ 12:17-21。BWV 72 に同じ。

[福音書]マタイ 8:1-13。(同上)

BWV 74 《われをば愛する者 われに従え II》(1725)

Wer mich liebet, der wird mein Wort halten II

【教会暦】聖霊降臨節第 1 祝日 (=BWV 34, 59, 172)

[書簡]使徒 2:1-13。BWV 34 に同じ。

[福音書]ヨハネ 14:2-31。(同上)

BWV 75 《貧しきものは 食し》(1723)

Die Elenden sollen essen

【教会暦】三位一体節後第 1 日曜日 (=BWV 20, 39)

[書簡]第 1 ヨハネ 4:16-21。BWV 20 に同じ。

[福音書]ルカ 16:19-31。(同上)